

京師けいしにて家書かしょを得えたり
(袁凱えんがい)

勤王大義太分明 報國丹心期七生
傳家一脈遺風在 誓學名聲弟與兄

江水こうすい 三千さんぜん里り

解説 この詩は作者が日露の役に出征するに際し、その覚悟を家兄に述べたもの。

家書かしょ 十じゅう 五行ごぎょう

語釈 ※丹心にまごころ。※期七生しちせい。楠木正成が湊川の戦に敗れて弟正季と自刀するとき「七度人間に生まれて朝敵を滅ぼさん」と誓った言葉に基づく。※伝家一脈でんかいつまへ。広瀬氏は南朝の忠臣菊池氏の後裔であるから、伝家の字を用いた。

行々ぎょうぎょう 別語べつご 無なく

通釈 臣として君のために忠節を尽くすという大義は、はなはだ明白であつて、国に報いようとするわれわれの真心

只ただ道みちう 早はやく 郷きょうに 帰かえれと

は、かの楠木正成・正季兄弟のごとく、七たびこの世に人間として生まれかえつて逆賊を絏くわげそうとする覚悟そのものである。わが家は名誉ある忠臣・菊池氏の子孫であるので、このように君のために命を捧げようとする忠節は、祖先伝来の遺風である。願わくはこのたびも先祖に劣らぬ武勲を立て、兄弟誓つて、わが家の名声をあげたいものである。